



JUSTICE

ジェイアール・イーストユニオン
 発行者 菅野 一位
 編集者 教 宣 部
 〒105-0021
 東京都港区東新橋 2-8-28
 TEL(J R) 057-7333
 TEL(NTT) 03-6452-9687
 ホームページ検索
 「J R E ユニオン」

基本理念

1. 社員で考え、社員のための労働運動を目指す 企業内労働組合
2. 心と心をつなぐ相互扶助活動と、次代につなぐ社会正義の実現を目指す

自らを変える!! 明日を創る!! イーストイノベーション

賃金制度等の一部改正について(追加) キャリア加算の対象を拡大

9月25日、令和2年4月の実施を目指している「賃金制度等の一部改正」について、追加提案があった。追加されたのは、メンテナンス系統の社員には適用が少なく、問題が指摘されている「キャリア加算」について、対象を取得資格にも充てたもので、施策設計の問題点として、交渉段階でも議論した部分である。

施策実現に向けた私たちの主張と交渉経過

同提案はジョブローテーションの実施に伴い、社員が多様な業務に従事することによる能力の伸長とその發揮への期待及び鉄道事業に

追加提案の3項目

追加①
 2つ以上の区分を経験する前に、表の資格を取得した場合、基本給額に2,000円を加えます。(入社2年未満・既に適用を受ける者を除く。)

追加②
 総合職社員はキャリア加算の対象外となります。

追加③
 本人の責に帰すべき事由による区分の変更はキャリア加算の対象外となります。

区分	資格名称
車両	一級鉄道車両製造・整備技能士
	レールエンジニア
施設	二級土木施工管理技士
	土木構造物メンテナンス技士
	二級建築士
	二級管工事施工管理技士
	建築物環境衛生管理技術者
電気	電力支持物設計エンジニア
	第三種電気主任技術者
	第二種電気工事士
	シグナルエンジニア
	工事担任者(第一種・総合種)

おける勤務の特殊性、不規則性に対する措置の充実を目的としたもので、当初(5月)の提案時は、職名上の区分が2以上に達した場合、基本給額に2,000円を加えるとしていた。今回、追加となったのは、「メンテナンス系統における基礎的資格を次のステップへの起点と評価し処遇を向上する」ための項目が追加され、この間、団体交渉を通じて主張してきた私たちの意見を反映したものとなっている。

団体交渉に臨むにあたってのスタンス

基本的に施策実現に向けてにあたっては、その趣旨を理解することが重要であり、そのためにも問題点は何か、抜けている点はないかなどを組織で議論し、より良い成果を生み出すための施策となるように求めていくことが労働組合の役割である。今回は、そうした中での上り修正とも言える追加提案となったものである。

今後の課題を乗り越えていくためにも

この先の社会情勢等を踏まれば、JR東日本、JR東日本グループにとっても

早川町地域活性化ボランティアに参加!

9月28、29日、山梨県早川町においてJR連合、地域活性化ボランティアが実施された。同ボランティア活動は、2008年から年に2回行われており、今回はJR連合役員をはじめ、JR東海ユニオン、JR四国労組、貨物鉄産労の仲間と共に、総勢22名が参加した。イーストユニオンからは、小林篤史中央執行委員が参加。同町保地区で、農道や用水路の清掃、獣害電気柵周辺の整備、山に

課題が山積していることは間違いなく、変革を通じて、多くの局面を一つひとつ乗り越えていくことが必要であると考える。そのためには職場で働く者がともに前に向かって行こうという気概を持つこと、そうした職場風土の醸成がなければならぬ。不平・不満を払拭するために、笑顔で語り合える職場明るく働きたいある職場作りが、求められている。私たちイーストユニオン運動の目指す方向である。

仲間とともに創り上げる運動をさらに展開していくこと。そして、多くの社員に理解してもらおう事が大切となつている。イノベーションとともに、大きく前に進んでいく。

登る舗装小道の砂利・落ち葉清掃、のり面の雑草刈り取りなどを行った。同地区の皆さんとの交流を通じ、地域活性化に向けて、全国の仲間と「地域共創」の実践となる活動を展開した。

私たちはJR連合の仲間と各種ボランティア活動に積極的に参加していきます!



“今”何をなすべきか

本部「第2回学習会」を開催!

JREユニオン本部は、9月20、21日の両日、中央執行役員及び中堅組合員の運動強化を目的に、「第2回学習会」を開催した。私たちは“今”何をなすべきか!組織をまとめ、運動をさらに展開していくために真剣な議論を重ねた。

同学習会は本年6月の開催に引き続き開催されたもので、今回は、JR連合尾形泰二郎事務局長を招いて講演をいただくなど、JR産業の発展のために、JR連合運動を東日本に築き上げること、次代に繋いでいくことの重要性を再確認し、そのための、私たちの運動の進め方を学ぶこととなった。

2日間に亘り、東京都内のホテルにおいて開催された「学習会」は、1日目の冒頭で、菅野執行委員長は、「私たちの組織を次代に継承するための場を作りながら、新しい仲間を次々と加えていく。これからも不断の努力を進めていく。」との決意を述べ、こうした機会を創出することにより、私たちの運動と



JR連合尾形事務局長

ともに、意義ある取り組みとしていくこととした学習会の開催目的を示した。その後、JR連合尾形事務局長より、「JR連合が今後取り組むべきこと、みなさんへのお願い」とのテーマで基調講演をいただいた。

講演では、現在のJRの労働情勢にふれ、JR連合の組織数が8万3千となり、なおも着実に拡大していること、JR東労組の瓦解により、これまで、いわゆる「三極構造」はすでに崩壊したとの認識を述べることも、JR東日本においては、経営側及び労働者側にも蔓延する「組合不要論」について、こうした状況の脱却の必要性を共有化しながら、これからの運動を、訴



える目標を考えながら進めていくことを明らかにした。また、JR産業がこれから向かえる厳しい局面について、産業の総合力が試される、そうした時代だからこそ、労使が危機感を共有し、連携して将来に向かわなければならないこと、JR連合は真のパートナーとしてその役割を担うべく、強い求心力を発揮して、「JR産業に集うすべての労働者」の総結集を図っていくものであるとした。そして単にこれまでのJR連合運動を次代に継承するのみならず、取り巻く「変化」を受け止める柔軟な組織体をめざすべく、あらたなビジョンを打ち出し、未来志向で成長し続ける姿を内外に示していきたいとあった。

菅野委員長からは、JR連合の組織10万人目標について、JR東日本の組合未加入者と、JR北海道、JR貨物の民主化とあわせて、産業内の未組織労働者の総集により、今後は、「20万人組織」を目指して

終わってわけではない! 今だからこそ、本当のことを知ることが大切だ! 「衝撃の超警報ノンフィクション!」

9月20日、ノンフィクションライターの「西岡研介」氏の著書、『トラジャ』とJR「革マル」30年の呪縛、労組の終焉が発売された。西岡氏と云えば、2008年に、「マンガローブ テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実」で、講談社ノンフィクション賞を受賞している。昨年6月には、「JR



いくものであるとの決意が語られた。

学習会2日目は、「民主化闘争を勝利するために」JRユニオンとして、今何をなすべきかをテーマとしたグループによるディス

カッションが行われた。私たちの目指す勝利について概念の一致をはかり、その求める姿を明確にしながら、そのための運動のあり方を考えること。現状の分析と問題点の克服に向けて、また、組織運動の展開の重要性などを議論し合った。JR東日本に真に求められる労働組合とは、どういったものなのか、私たちJRユニオンの存在意義とは何かを再確認するとともに、今後の活動の糧となる学習会となった。



JR連合の旗のもと、JR東日本に当たり前の労働組合運動を築くために、組合員が認識を一致させ、今こそイースト運動を展開していかなければならない。

目次
第1章 3万5000人の大量脱退 ---JR東労組は崩壊するのか
【第1部】JR東日本「革マル」30年の呪縛
第2章 裏切られた「革命」
第3章 失われた「20年」の犠牲者
第4章 労政転換に向けた宣言
第5章 カリスマの崩壊と転落と死
【第2部】「JR革マル」対「党革マル」の内ゲバ
第6章 革マル派「分裂」最大の危機
第7章 利用されたナンバー2の「拉致」事件
【第3部】JR北海道「歪な労政」の犠牲者
第8章 ある組合員の死
第9章 異常な転勤命令
第10章 「人事権」と「車両選定」への「介入」
第11章 労政改革の否定が招いた「2人の社長の死」
第12章 「ATS破壊」「フル検拒否」「覚醒刑運転」---労政改革いまだならず
終章 戦闘的国鉄労働運動の「完全なる死」---革マル「呪縛」からの解放と「労組不要論」

「絆」をさらに太く、運動をさらに前に進める為に!

今年も「イーストキャンペーン」開催します!
「第4回イーストキャンペーン」
【日時】令和元年10月26日(土) 10月27日(日)
【場所】KIBOTCHA(キボツチャ) 宮城県東松島市
同施設は、東日本大震災において被災した小学校を利用し、「これからの時代を支える子どもたちの未来に命の大切さを伝えたい」とのコンセプトのもと昨年完成した施設です。「希望」「防災」「未来」(フューチャー)を学ぶことができます。